

連続企画 「目指せ ミュージカル水戸黄門?」、堂々の大団円

ミュージカル 水戸黄門

—ヤング光圀、開眼の旅—



舞台写真撮影：刑部アツシ(おさかべ写真館)

日程：2023年12月21日(木)～24日(日)

会場：水戸芸術館ACM劇場

構成・脚本：井上 桂 / 構成・演出：橋本昭博 / 音楽：片野真吾 / スーパーバイザー：小佐原孝幸

出演：安達勇人、加藤良輔、神田真紅、ICHI、Jungle Mover(TAKU、SHO-HEY)、IB6side(バファリン、AOI)、
高根正樹、小林祐介、草薨智文、青木志穂、塚原ゆうき、MAHO、ティンティン・小林鈴勘、はなわちえ

助成：一般財団法人地域創造、文化庁文化芸術振興費補助金 劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業(地域の中核劇場・
音楽堂等活性化)、独立行政法人日本芸術文化振興会

企画・制作：水戸芸術館ACM劇場 / 主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団



【お問合せ】 企画について：水戸芸術館演劇部門 高比良
取材について： 同 広報係 中山・川崎
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

tel.029-227-8123
tel.029-227-8111/mail.kouhou@arttowermito.or.jp
web.https://www.arttowermito.or.jp/

きっかけは手詰まりから

2020年秋、コロナ禍真っ最中、なんとか音楽劇「夜のピクニック」を上演したものの、その年のほとんどの公演はキャンセル、それ以降も東京からやってくる人材を当てにした企画は立て難く、先が全く見えない状況でした。もちろん県内のアーティストたちもほとんど仕事がなく、仕事場どころか人前でやって見せる機会すら失われていました。そうしたアーティストに寄り添えることは出来ないか、というのがこの企画の始まりです。

スタートも手探りから

地元茨城を盛り上げようと頑張っている安達勇人さんと知り合ったこともあって、そんな若者が茨城を盛り上げるための同世代の仲間探しをモチーフにすれば、演劇界以外の人材も登場させられる連続した物語が作れるだろうと考え、当たるを幸いに県内アーティストを訪ね始めました。そしてその集まったアーティストが最終的に目指し作ろうとするものは「やっぱ、水戸黄門の舞台化じゃない？ しかもミュージカルで!」というフリートークの発言そのままにそれを目指すことになりました。というわけでタイトルも『目指せ“ミュージカル水戸黄門”?』と決まったわけです。今思うと、思い切りが良いというのか、アバウトというのか不思議なスタートでしたが、あの時ならではのアイデアと決断だったのです。

ジャンルを超えた素敵なアーティストとの出会い

思わぬ形で始まった企画ですが、実際に出会ったアーティストたちの凄いこと！ 講談師・マジシャン・ストリートダンサー・津軽三味線奏者・尺八奏者・アイドル・ミュージカル俳優・舞台俳優…、その才能が舞台に結集した時の弾け方もハンパじゃありません。コロナでもなかったらこうした出会いもなかったでしょうが、フィールドが違うとはいえ未来を拓こうと頑張っている若いアーティストたちの姿には、何度も元気づけられました。幸い三度にわたる仲間探しの旅も終わり、奇しくもコロナが一段落した本年2023年の終わりに、その力を結集したオリジナル作品『ミュージカル水戸黄門』を上演するほど成長できました。

『ミュージカル 水戸黄門』 (令和5年12月上演)

これまでの三作では、17歳の光圀がやんちゃな暴れん坊だったという史実を踏まえ、その光圀が育った江戸藩邸や水戸領内の宮田村を舞台に、そんな光圀が若さゆえの葛藤とどう向き合ってきたかを描きました。戦国時代が終わった平和な時代、武士たちは新しい生き方を求められていました。光圀ですら例外ではありませんが、彼は望まぬ形で水戸藩二代目にも決められています。光圀は、自分の人生は自分で開きたい、いや決めたいと思っていたのではなかろうか…。ままたぬ人生の苛立ちが、彼を暴れん坊にできてしまっていたようですが、そんな光圀の唯一の救いは吉原の花魁・胡蝶でした。彼女は、武士の視線だけではわからない多くのことを光圀に教え、光圀はそこから統治者としての覚悟を学んでいきますが、胡蝶は光圀に大きな願いを託したまま、病ではかなく逝ってしまいます。

翌年、光圀は胡蝶の形見を生まれ故郷に届けた帰り道、完成間もない日光東照宮をお忍びで詣でていた。日光街道は東照宮を詣でる旅人で賑わっていたが、なぜか光圀主従そっくりな格好の二人組や、ちりめん問屋の陽気な老人も旅していた…。出会うわけのない三者三様の旅人たちだったが、街道を牛耳る代官の悪たくみが意外な出会いと事件を引き起こすのだった…。奇しくも祖父・家康公が十七歳の初陣で勝利を得たように、光圀は自分の人生の勝利を手にする事が出来るのだろうか？

https://www.arttowermito.or.jp/sp/mitokoumon_musical/

Archive

夏の陣 (令和3年度7月－8月上演) <https://www.arttowermito.or.jp/sp/mitokoumon/>

演劇の分野の才能だけでなく、全国や海外で活躍する講談師・マジシャン・ストリートダンサーにご参加いただきましたが、彼らの魅力をふんだんに盛り込んだショーアップされた舞台となりました。物語は、名君と言われた水戸光圀(水戸黄門)は、実は若い時にやんちゃだったという史実を踏まえ、そんな若き水戸光圀の青春の一風景をミュージカルに出来ないかと動き出す若者たちの姿を描いています。実現へのヒントも見つかり、そのために必要な人材探しに出かけるところで物語は終わります。

冬の陣 (令和3年度12月上演) https://www.arttowermito.or.jp/sp/mitokoumon_winter/

冬の陣では、『ミュージカル水戸黄門』の上演に必要な人材探しの旅が描かれました。茨城県は全国で活躍する素晴らしいストリートダンサーに加え、津軽三味線も盛んで全国トップレベルの素晴らしい奏者も多く輩出しています。そうした人材を新たにメンバーに迎え、若き光圀の水戸領内でのひそかな旅を描きました。光圀はだれかとの約束を果たすべく、武者修行している浪人へと身をやつし、水戸領内宮田村(現・日立市)をひそかに訪れるのですが、光圀が目当たりにする農民たちの実情とは。光圀は、おのれの恵まれた環境を認識し、だからこそ出来ることは何かと反問するような成長を遂げたのです。

光圀青春篇^{ロマンス} (令和4年9月上演) https://www.arttowermito.or.jp/sp/mitokoumon_romance/

『ミュージカル水戸黄門』を彩るヒロインにして最後のパートとなる人物が登場しました。メンバーが揃ったところで本編の前日譚となる物語が全て披露されました。「冬の陣」で光圀は宮田村を密かに訪れましたが、それは亡き恋人との約束を果たすためでした。その恋人とは、どこで出会い、どんな出来事があって、どんな別れがあったのか。そして光圀は何を学び、何を約束したのでしょうか。光圀の最大の悲恋をAKB48の岡部麟さん(日立市出身)をヒロインに迎え、ミュージカルらしくドラマチックに描きました。

夏の陣 お客様からのアンケートより抜粋

- ・最初のBGMのかっこよさに今から始まる何かを感じました。そっか、黄門様ってヒーローものなんだったと思いました。茨城の新たなヒーローたちの素敵な活躍に期待しています!(30代)
- ・水戸芸術館で、地元愛あふれるオリジナルの演劇を見られてとても心が潤いました。幕あけの瞬間は、久しぶりの「幕が上がる」感覚に涙ぐんでしまいました。(30代)
- ・家族みんなで楽しめました。また見たいです。(40代)
- ・舞台を創る過程を見ているようで自分も一緒に「水戸みゅ」を作っている一人であるように感じました。(20代)
- ・茨城の茨城にしかない素敵なミュージカルを今回観ることができてとても幸せでした!!感動のステージでした。(50代)
- ・進学やその先のことで未来が分からず少しめげていました。でも素晴らしい言葉と歌声に背中を押していただけました。私の心に光をくれたこの作品が、茨城に光を与えますように。(10代)

冬の陣 お客様からのアンケートより抜粋

- ・これだけバラバラのジャンルの人たちなのに、一つにまとまった物語、作品になっているのがすごい。ふだんダンスを観ることはあまりないので、ダンサーのパフォーマンスを間近に観て、すごい身体能力、表現力だと思いました。紅葉と楓のくだりは切なかった。三味線の音色や和装にもダンスがすごく合うんですね。(40代)
- ・ジャンルを超えたMIXが刺激があって、和洋、新旧、シリアスと笑い、様々な要素がバランス良く魅力に満ちていました。「水戸のシルクドソレイユ!」ですね。コロナをひととき忘れさせて頂きありがとうございます。(50代)
- ・夏の陣に引き続きとても楽しかったです。茨城には、まだまだ素敵な方々がこんなにいるんですね。“いばらしい”と思いました。(40代)
- ・色々なジャンルのプロの方々のパフォーマンス最高!そして、みんなで作ってミュージカル“水戸黄門”も最高!最後に、水戸みゅ最高!コロナの中 今年一番の大感動でした。すばらしい!ありがとう!初めて水戸芸術館に来てこんなに感動して帰れるなんて幸せです。(50代)
- ・茨城出身でも知らなかった事を今日の公演で知れて、茨城が大好きになりました(20代)

青春篇 お客様からのアンケートより抜粋

- ・殺陣ダンス素晴らしかったです!! 押し引きの迫力かっこいい。光圀のこと、調べてみたくなりました。(時代背景とかも含め)(50代)
- ・水戸黄門を通して、茨城を知ってもらうきっかけになって、個性豊かな出演者の皆様を通してエンタメを知りきっかけになって。大袈裟な言葉かもしれないけれど「未来につながる舞台だな」って思いました。素敵な舞台を届けてくださってありがとうございました!(20代)
- ・出演回数など関係なくずっとみんなでやってきたかのような団結力があり、茨城出身という地元愛のようなもので繋がっているのかなと! 同じ茨城県民として、こんなに素敵なアーティストさんがいることをこのミュージカルを通じて知りました。とても嬉しいです。水戸黄門様のように「水戸みゅ」も全国に旅に出るのもいいですね。全国の方にも観てほしいです。(50代)

未来サポートの歩み

2014年に始まった未来サポートのプロジェクトは、茨城にゆかりのあるアーティストの発掘と舞台出演の機会の提供だけでなく、地域が誇りに思うべき先人や取り組みを舞台化して、大きな成果を挙げてきました。2020年には装いを新たに、「茨城の魅力は若者だ」という視点で、ジャンルの枠を飛び越えて様々なコラボレーション現場を創作。改めて茨城県の魅力を発信する企画としてスタートしました。

未来サポートの軌跡

vol.1

2014.1『息子たち』 作:S・メトカルフ 翻訳:高橋知伽江 演出:磯村 純

vol.2

2014.4『津軽三味線 はなわちえの世界』 出演:はなわちえ

vol.3

2014.9『やさしい死神』 原作:大倉崇裕 脚色:横山一真 演出:遠島立夫

vol.4

2015.2『十二夜／わたくし、マルヴォーリオは—』 原作:W.シェイクスピア(十二夜)
原作:T.クラウチ(わたくし、マルヴォーリオは—) 翻訳:松岡和子 演出:森 新太郎

vol.5

2015.6『赤シャツ』 作:マキノノゾミ 演出:西川信廣

vol.6

2015.9『WALK THIS WAY!』ストリートダンス×ACM THEATER

vol.7

2016.7『むりやりドクター!?』 原作:モリエール 翻案・演出:遠島立夫

vol.8

2016.9 音楽劇『夜のピクニック』 原作:恩田 陸「夜のピクニック」(新潮文庫刊)
脚本:高橋知伽江 演出:深作健太 音楽:扇谷研人

vol.9

2017.3『和JAZZ』

vol.10

2017.9『アートタワー寄席』 出演:春風亭ぴっかり☆、桂 宮治、神田真紅、柳貴家小雪、柳家さん助

vol.11

2018.3『ACMシアターコンサート 2018』

vol.12

2018.8 NEW BRITISH MUSICAL『In Touch』 Music&Lyrics&Book:D・アーバイン 演出:菊地 創

vol.13

2018.9『海辺の鉄道の話』 作・演出:詩森ろば

vol.14

2018.9『水戸子どもミュージカルスクールネクストドア サマーキャンパス』
脚本:高橋知伽江 作曲・片野真吾 演出:大杉 良

vol.15

2024.1『根本紳平(水中メガネ∞)特集 □ to X』

夏の陣

2021.7「目指せ ミュージカル水戸黄門?」～夏の陣～ 構成・脚本:井上 桂 演出:橋本昭博

冬の陣

2021.12「目指せ ミュージカル水戸黄門?」～冬の陣～ 構成・脚本:井上 桂 演出:橋本昭博

青春篇

2022.9「目指せ ミュージカル水戸黄門?」～光圀青春篇～ 構成・脚本:井上 桂 演出:橋本昭博

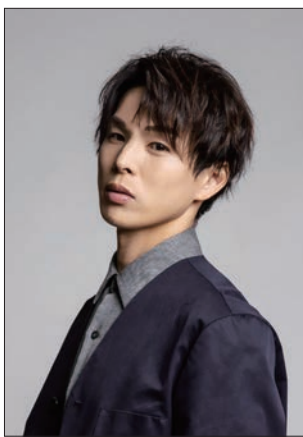


安達勇人 Yuto Adachi

桜川市出身

ミュージカル『忍たま乱太郎』『王室教師ハイネ』『フルーツバスケット』の出演のみならず、茨城県のため2018年から1500人規模の町おこし音楽フェスを開催するなど、いばらき大使としても精力的に活躍中。2020-2021年は単独での東名阪Zepp LIVEツアーを開催。カフェ、ファッションブランドなどのプロデュースも手掛ける。

歌手・俳優・声優



加藤良輔 Ryosuke Kato

水戸市出身

2004年ミュージカル『テニスの王子様』でデビュー。以来、ミュージカルからストレートプレイまで幅広く活躍するオールラウンドプレイヤー。RSK名義でのアーティスト活動も行っており、8月9日には新曲「花火」をリリース。最近の出演作として音楽劇『ミュージカル青春-AOHARU-鉄道』『ヒプノシスマイク-Division Rap Battle-』シリーズなど多数。

<https://bam-boo.biz/actors.php?id=2>

歌手・俳優



神田真紅 Shinku Kanda

水戸市三の丸出身

大学で歴史学を学び、編集者を経て神田 紅に入門。日本講談協会・落語芸術協会所属の二ツ目。古典『水戸黄門漫遊記』はもちろん、新作でも水戸の歴史にまつわる講談を多く手掛ける。昨年に続き今春も開催のJR東日本企画『歴史講談 水戸漫遊』のナレーションを担当。水戸市出身の講談師としては実に200年ぶり。来年3月真打昇進が決定。三代目・松林伯知の名を襲名する。

https://www.geikyo.com/profile/profile_detail.php?id=245

講談師



ICHI

つくば市在住

2006年よりLAに渡り、“THE LOCKERS”のメンバー等数々のOG達から確かなカルチャー、テクニックを直接学ぶ。今や日本屈指のLOCKERで、国内外の様々なBATTLEで優勝経験をもつ茨城のPURE FUNK DANCER。海外でのワークショップ、ジャッジの経験を経て、アスリートへの指導など活動の幅を広げている。

Lockingダンサー



Jungle Mover

TAKUとSHO-HEYで結成したダンスユニット。2021年夏に開催された「JAPAN DANCE DELIGHTvol.27final」では、第3位を獲得。茨城を代表するユニット。

TAKU (右) かすみがうら市出身

キッズ時代よりコンテスト受賞歴は50以上。日本最高峰のダンスコンテスト「JAPAN DANCE DELIGHT」でも入賞を果たす。講師、ワークショップなど後進の指導も積極的に行うほか、コンテストやバトルイベントのジャッジも務める。 **HipHopダンサー**

SHO-HEY (左) 土浦市出身

幼少期からダンスを始め数々のダンスコンテスト、ダンスバトルにて入賞、優勝を獲得。ほかに日本テレビ「スッカリ」にダンスパフォーマンス出演、アーティストA1のオープニングダンサーなどメディアでも多彩な活躍を見せている。 **HipHopダンサー**



IB6side

「JAPAN DANCE DELIGHT」で特別賞、「TOKYO DANCE DELIGHT」では3位、また東日本ストリートダンスコンテスト「GRANDSOUL」で4連覇達成など輝かしい功績を刻む。茨城6国沿いから発信し続ける、バファリンとAOIからなるPOPダンスチーム。昨年からスポーツブランドFILAが設立したFILA DANCE CREW (F D C) に公式エバンジェリストとして参加。

バファリン 日立市在住 (右)

日本最大規模のダンスバトル「DANCE@LIVE」で2度ファイナリストとなり準優勝を獲得など輝かしい結果を見せるほか、TV、CM、MVなどでも活躍。近年は地元茨城でのイベント主催などでも地域貢献に力を注いでいる。 **POPPINGダンサー**

AOI ひたちなか市出身 (左)

キッズ時代からダンスを始め、茨城を中心に活動している。IB6sideとして数々の世界大会への出場のほか、コンテストだけでなくバトルでも好成績を残している。HIPHOPやPOPPINGといった異なるダンスのジャンルを自由に行き来して活躍の場を広げている。 **POPPING・HIPHOPダンサー**



高根正樹 Masaki Takane

日立市出身

元サンリオピューロランド公式アイドル「ピューロボーイズ」のメンバー。約2000人の中から5名にオーディションを経て選ばれた。現在はオリジナルメンバーで活動を継続し、ボーイズアイドルグループ『PANBE (ぱんびー)』として活動中。ダンサーとしても活動歴があり、武道館やさいたまスーパーアリーナ、紅白歌合戦やMステなど音楽番組にも多数出演。2014年、松竹ミュージカル『ザ・オダサク』で俳優として初舞台を踏み、その後、バレーボール、テニスの経験を生かし、ミュージカル『テニスの王子様シリーズ』、演劇『ハイキュー!!』に出演し活躍。ほかにミュージカル『刀剣乱舞』『ちっちゃな英雄』『ふしぎ遊戯～蒼の章～』など精力的に活動している。 **俳優・アイドル**



小林祐介 Yusuke Kobayashi

ひたちなか市在住

水戸芸術館劇団ACM専属俳優。同じく専属劇団員の大内真智と「ゆうくとマツさん」のユニットを組んで絵本の読み聞かせの活動も行っている。俳優としてのみならずFMぱるるん「COMBOX LIVE DISCUSS」月曜パーソナリティーや一般社団法人水戸葵社中演出部担当。過去には、大洗水族館オーシャンシアター演技指導、常陽藝文学苑講師も務めた。

俳優



草薨智文 Tomofumi Kusanagi

ひたちなか市在住

「目指せ ミュージカル水戸黄門？」3作品の殺陣助手として携わる。これまでの出演作品はTEAM HANDYプロデュース公演のほか、『俺節』『オレステイア』『国粋主義者のための戦争寓話』『アンチポデス』などがある。新国立劇場演劇研修所9期修了生。

俳優



青木志穂 Shion Aoki

水戸芸術館ACM劇場プロデュース『スーホの白い馬』に2021年、2022年と出演。躯体のしなやかさを武器にその演技とダンスで観客の話題をさらった。近年の主な出演作品に、ミュージカル『薄桜鬼 真改 山南敬助篇』、舞台『トレンディは突然に』、『青春舞台 1518! イチゴーイチハチ!』、ドラマ『キス×kiss×キス～パーフェクトスキヤンダル～』など。

女優



塚原ゆうき Yuki Tsukahara

古河市出身

18歳でプロとしてデビュー。テーブルマジックから、大迫力のイリュージョンまで多彩なネタを武器に年間10万人以上にパフォーマンスを届けてきた実力派若手マジシャン。地元茨城県を盛り上げるため、県内各所のイベントや商業施設などに積極的に出演し、過去2回主催した古河大道芸フェスティバルも成功させてきた。

マジシャン



MAHO

つくば市出身

6歳の頃からDance Association Seeds (DAS) でダンスを始める。次第にJazzとWaackの虜となり、大学時代にはWaacking Freestyleチーム「FRAN」を結成。大学生ダンスコンテスト「BIGBANG」で、女性チーム初の東西優勝を遂げる。現在は、茨城を中心にダンサー、指導者として活動中。

Jazz、Waackダンサー



ティンティン Thinthin

阿見町出身

6歳からストリートダンスを始め、HIPHOPをベースに様々なジャンルのダンスをフュージョンさせた「オリジナルティンティンスタイル」で、数々のバトルやコンテストで優勝・入賞をおさめる。現在インストラクターを務めるD-Lifeダンススクール、DASダンスサークルでは幅広い年齢層の指導にあたっている。

HIPHOPダンサー



小林鈴勘 Reikan Kobayashi

水戸市出身

東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。幼少期にピアノを、13歳からはギターを始めジャズに傾倒。20歳で尺八に出会い、大学在学中に古典楽曲を学びながらも、尺八でジャズの演奏を独自に習得。2016年横濱ジャズプロムナード・デトロイトジャズフェスティバルコンペティションにおいてファイナリストに選出。水戸芸術館には、2008年に『茨城の名手・名歌手たち』第19回演奏会、2017年未来サポートプロジェクトvol.9『和JAZZ』に登場。

尺八奏者・作曲家



はなわちえ Chie Hanawa

9歳から津軽三味線を習い始め、2000年、17歳で津軽三味線全国大会のA級女性部門に出場し最年少チャンピオンとなる。2004年アルバム『月のうさぎ』でメジャーデビュー。ソロ奏者のみならず、ヴァイオリン奏者や、尺八奏者とのユニットとしても活躍。国境を越えて幅広い音楽活動を展開している。

津軽三味線奏者

構成・脚本:井上 桂（前・水戸芸術館演劇部門芸術監督） Katsura Inoue



岩手県出身。

大学生時代より野田秀樹氏の夢の遊眠社、井上ひさし氏のこまつ座などから演劇に関わり、大学卒業後は演出部・舞台監督・舞台制作者として活動し、1996年の新国立劇場の開場とともに演劇制作部プロデューサーとして、渡辺浩子、栗山民也両芸術監督の下、企画制作を行う。2005年新国立劇場に国立としては初の俳優養成の研修所が開設されるとその運営を栗山氏と'10年まで担う。以降はフリーとして活動しつつ、'12年より日本芸術文化振興会プログラムオフィサー（演劇部門）に就任し、文化事業に関わる様々な委員などを歴任。'17年4月、水戸芸術館演劇部門芸術監督に就任。'22年3月末退任。在任中は国内で初めてとなる宮崎駿オリジナル作品の舞台化（『最貧前線 宮崎駿の雑想ノートより』）などで、水戸芸術館を改めて全国に紹介するなど精力的な活動を行った。

構成・演出:橋本昭博 Akihiro Hashimoto



茨城県ひたちなか市出身。

桐朋学園芸術短期大学卒業。俳優・演出家・Moratorium Pants主宰。

12歳で初舞台を踏み、2011年、演劇プロデュースユニットMoratorium Pantsを旗揚げ。全作品のプロデュース・演出を手がける。詩人の谷川俊太郎氏の作品やオリジナル作品を上演。『新羅生門』『リボンの騎士』（'11年、横内謙介作・演出）、てがみ座『汽水域』（'14年、扇田拓也演出）など外部公演への出演も多数。他にも、'13年シンガポールとの国際共同制作舞台に出演、'14年上田慎一郎監督映画『彼女の告白ランキング』で水戸短編映像祭ベストアクター賞受賞、'15年ユース非核特使として世界一周、表現教育指導者として教育現場でも活動を展開するなど、多岐に渡って活動中。

'19年3月には、穂の国とよはし芸術劇場PLATで「2018年度 市民と創造する演劇」でシェイクスピアの『リア王』の演出を担当する。また'21～22年小美玉市の文化創造コーディネーターを務めた。水戸芸術館ACM劇場には『十二夜』（'15年、森新太郎演出）、音楽劇『夜のピクニック』（'16年、深作健太演出）、『海辺の鉄道の話』（'18年、詩森ろば作・演出）の出演に続き、『ミュージカル水戸黄門』シリーズが初の演出としての参加となる。

演劇プロデュースユニット モラトリアムパンツ

<https://moratoriumpants.wixsite.com/mp2016>

公演情報

水戸芸術館ACM劇場+ADACHIHOUSEラボ

新・未来サポート事業

『ミュージカル水戸黄門』

—ヤング光圈、開眼の旅—

日程:2023年 12月21日(木)18:00 (★プレビュー公演)

22日(金)14:00

23日(土)13:00 / 18:00

24日(日)13:00

*全5回公演(12/21はプレビュー)

*開場は開演の30分前

会場:水戸芸術館ACM劇場

出演:安達勇人、加藤良輔、神田真紅、ICHI、Jungle Mover(TAKU、SHO-HEY)、
IB6side(バファリン、AOI)、高根正樹、小林祐介、草薨智文、青木志穂、塚原ゆうき、
MAHO、ティンティン・小林鈴勘、はなわちえ

スタッフ

構成・脚本:井上 桂 構成・演出:橋本昭博 音楽:片野真吾 スーパーバイザー:小佐原孝幸

美術:平山正太郎 照明:中川隆一 音響:百合山真人 映像:松澤延拓 衣裳:阿部美千代

ヘアメイク:中原雅子 ステージング:高城信江 殺陣:亀山ゆうみ 所作指導:相澤まどか

演出助手:鳥居和真 宣伝美術:早田二郎 制作:高比良理恵、児玉ひろみ 舞台監督:野口 毅

協力:Dance Association Seeds/GRANDSOUL

水戸芸術館演劇部門芸術監督:岡本由紀夫

企画・制作:水戸芸術館ACM劇場 主催:公益財団法人水戸市芸術振興財団

助成:一般社団法人地域創造、文化庁文化芸術振興費補助金

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

独立行政法人日本芸術文化振興会

チケット好評発売中

【料金】(全席指定・税込)

S席:5,000円 A席:3,000円 U-25:2,500円 (25歳以下 要身分証明書提示/数に限りあり)

プレビュー公演:2,500円

【取扱い】

水戸芸術館(9:30~18:00/休館:月曜・年末年始)

◎窓口 エントランスホール内チケットカウンター

◎電話 チケット予約センター TEL 029-225-3555

◎Web <https://www.arttowermito.or.jp/ticket/>

*未就学児童の入場はご遠慮ください。

*車椅子でのご来場は、チケット予約時にお知らせください。

*開演時間を過ぎてからのご入場は、指定の座席にご案内できない場合がございます。

*新型コロナウイルス感染症の拡大などの状況により、内容の変更や公演の中止、または延期を余儀なくされる場合もございますので、最新の情報は当館ウェブサイトやSNSにてご確認ください。